

恩師の皆さま、 あだ名は敬愛の印です

さて、中学校思い出の総決算として

京都への修学旅行は、お騒がせの集大成でした

そこで思い出すのは、枕投げ・・・

京都の旅館の夕食後でした。

食後の予定は、外出して自由な買い物時間に充てられ、寝ることになっている大部屋でしばし、くつろぐことになった。

さて、旅の恥は掻き捨て？その旅行を以って同期の皆さんとは最後、大広間、そこに先生は居ない解放感・・・手元には枕が出番を待っている・・・すべては整った！「それ」が始まるのは至極当然のことだった。

一斉に、枕が飛び交った。

実に豪快な気分を皆んなで共有したのだった。

そしてその顛末も、当然の罰として、予定の外出は「禁止」となったのでした。

往復ビンタが無かったのはせめてもの幸いです。学園最後の行事ということで、情状の酌量があったのでしよう。

聞けば、枕投げは僕らクラスだけの行事であったという。（本当だろうか？どのクラスも盛大に行っていた筈だ。たまたま運悪く見つかってしまったのが僕らのクラスのみ、であったに違いない。これをやらない手はない）

なお、女子は割を食って、共に外出禁止となったらしい。御免。

さて、敬遠されがちな存在の先生。

僕らにとってあだ名はそのスタンスを縮めるに不可欠

な陰の愛称として、当時はとりわけ濃い役割がありました。
あらためて、

せんせい！

学校生活を通じて、先生は僕らを導く師でありました。
当時僕らが愛称として陰でそっと申し上げていたあだ
名を、心から敬愛を込めて、呼ばせていただきます。

- ・ライオン（先生、以下省略）／陸上の選手であったそう
で、髪を振り乱して走るさまが百獣の王のようだった
- ・さかっちゃん／名前が確か「さとうかつひろ」ちゃん
- ・あんどぼーず／安藤先生はお坊さんで、雰囲気も入道の
ごとし

- ・クエッション／後頭部の格好を横から見ると、？

- ・ビーシー／当時駄菓子屋にあったBCキャラメルは象が
キャラクター。その象の大きなお尻から連想

- ・かろれ／当の先生が言われた「××門出のときだ」を「か
ろれのととき」と聞こえて、命名。舌が長めだったようだ
ろくしゃく／六尺。文字通り、ひと際目立つ長身ゆえ
（なお、六尺は百八十二センチ、これで当時は抜きん出
ていたのですね）

- ・はっかい／西遊記の「猪八戒」の風貌から。なお先生は
お坊さんでもあった

※他にも、いろいろとあったようですが、控えめがよろ
しいようで。

それにしても、言い得て妙の命名です。なお、いつの頃
から命名されていたのだろう。

そして昭和四十一年、

ちようと中学卒業して十年が経った早春。その日たまたま僕

は、久しぶりに多古（扇町）の実家に帰省、前の年に所帯を持って妻も同行していた。

かなり近くで、慌ただしくサイレンを鳴らしながら、しかも一台や二台でない多数の消防自動車が停止しているような異常な様子に、僕は表に飛び出した。

歩いて五分も掛からない白山中学校のある西の空に猛烈な黒煙が上がっている。不吉な予感がして、県道を突っ切り、見晴らしの良いところに出て、仰天した。

母校が紅蓮の炎の中に！

激しい勢いの紅蓮の炎に包まれ火の粉を飛ばしながら、もろくも崩れ落ちてゆく二階建の黒い建物は、まさしく、中学校一年次にお世話になった東校舎だった。

校舎は、群がるように放たれる消防水も、大勢の消防士の手も何ら役立たない恐ろしく狂おしい悪夢のような火炎の中にあった。

規制線の外で、それを呆然と見つめながら、我が母校は木造であったことに今更のように気が付いた。三学年合わせて千数百人も生徒を収容した大規模な校舎が木造であったのだ。

どの程度、消失したか判らないが、あの様子だとまさに灰燼に帰したに違いない。大切な存在が失われゆく喪失感で力が抜けてゆく思いだった。

なおこの時、柳川姓となった妻も初産の子の帯祝いの準備中にあつたが、母校火災の噂を聞いて、表に出ようとしていたのを家族に強く制止されたという。

火災を眼にすると、痣のある子ができる、といわれている。たそうだ。



昭和四十年代は、不幸にも学校火災が相次いだ十年であ

ったという。そしてその都度、近隣の寺院や公民館、焼け残った校舎等を利用して授業を続ける一方で復旧工事に直ちに着手したそうだ。

やがて校舎は、木造から鉄筋コンクリート造りに移行して、僕らが学んだ面影はすっかり姿を消したのだった。

※本稿も、2組の下さんこと下赤隆信君から多くの情報を頂きました

(完)